

分科会のまとめ 小学校 総合

授業者	海田東小学校 5年 保田 典子
	海田南小学校 5年 遠藤 康平・白石 絵美
指導助言者	比治山大学現代文化学部 教授 上之園 公子 様
司会者	海田南小学校 中坪 清美
記録者	海田東小学校 夏 純子

1 協議内容（○成果・●課題）

【海田東小】

① 児童が主体的・協働的に学ぼうとする姿が見られたか

- 単元の構成がよく考えられていて、単元のゴールを児童がしっかりと見据えることができていた。
- 学習計画、付けたい力が明確になっていたので、児童が何に向けて頑張ればいいのかよく分かっていた。
- 「課題発見・解決学習」の過程が理科，家庭科，社会科，算数科，国語科と教科横断的な取組になっていて、単元を通して主体的に学ぶことができる単元構成になっていた。
- 相手意識を明確にもたせることで、頑張ろうとする意欲付けができていた。
- 具体的なイメージを抱くことができていた。
- 自分も食べることができるので、やる気がアップしていた。
- ワークシートに自分の考えを記入させていたので、自分の意見をもって話し合うことができていた。
- 話し合いの際グループの中で役割分担をしていると、より話し合いがスムーズに進んだのではないだろうか。

② 児童生徒が自分の考えを深めるための指導の工夫がされていたか

- レシピ集や 10 kg からできる加工品の量等，たくさん情報を集めているので根拠を明確にして話し合っていた。
- 資料が豊富で，過去のデータが役に立っていた。
- 視点が明確で，たくさんあったので，一つのことに對して多面的に考えることができていた。
- マトリクスを活用していたので，全体の意見（考え）が一目でよく分かり，総合的に判断することができていた。
- 時間設定が明確に提示されていると，時間の見通しをもって話し合うことができたのではないだろうか。
- 費用や加工時間など具体的なイメージをもっていると深く話し合うことができたのではないだろうか。

③ 児童生徒が安心して学習できる環境づくりや人間関係づくりはどうか

- 聞く、話す等基本的な学習規律が整っていた。
- 認め合える人間関係ができているので、疑問に思ったことを聞き返す等、深い話し合いができていた。
- 意見が言いやすい学級の雰囲気できていた。
- 机間指導をしながら、協働的に学べるよう支援していた。



【海田南小】

① 児童生徒の主体的・協働的に学ぼうとする姿が見られたか

- 前時までのノートを振り返り、課題を見つけ本時の新たな課題にすることができていた。
- めあて、ゴールが明確になっていたため、児童が本時で何を学ぶかがよく把握しており、振り返りに45分の学びが表れていた。
- 単元が「児童の身近な内容であるが、実はよく知らない」ものを設定しており、家の人に伝えることでさらに学習意欲が増すよう計画されていた。
- 自分たちが伝えたい文化財について情報を集め、伝えたいことをしっかりもっていた。
- 話し合いの視点や指示が明確だったので、児童が迷わず活動できた。
- 誰が話し合いの中心になっていたのか、明確になっているとさらに話し合いがスムーズに進んだのではないだろうか。
- 時間配分が明確にされているとよかったのではないか。

② 児童生徒が自分の考えを深めるための指導の工夫がされていたか

- ワークシートが児童が使いやすいよう工夫されていた。
- 話し合いをする中で疑問が出ると、児童に返し児童の言葉で解決していた。
- 机間指導をしながら児童のつぶやきを拾い、全体に返すことができていた。
- そう考えた理由を具体的に話すことができていた。
- 児童から出た困ったことを全体で考え深めていたが、全体で考えたことをもう一度グループに戻して見直す時間があるとよかったのではないか。
- 「どうですか」→「いいです」ではなく、「いいです」と児童が反応をした時には、何がどうよかったのかを切り返すともっと深い話し合いができたのではないか。
- 「よりよいガイド」の「よりよい」を希少性についてや地域の人たちに対して等、具体的に示すとよかったのではないだろうか。

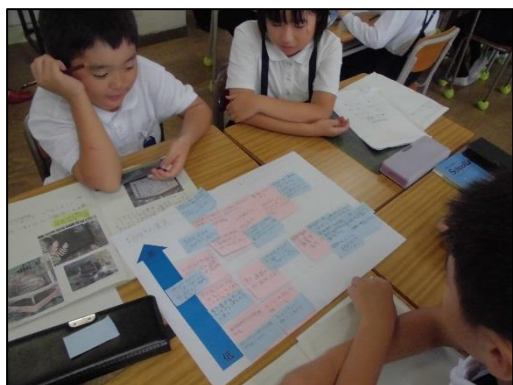
③ 児童生徒が安心して学習できる環境づくりや人間関係づくりはどうか

○「考える時間をください。」と安心して発言ができる学級づくりができていた。

○先生の言葉遣いがていねいでよかった。

○学習規律がしっかりと身についていた。

○T.Tが板書をタイムリーに行うことで、視覚支援につながっていた。



2 指導・助言

〈主体的な学び〉

学習計画（ストーリー）を子どもたちが把握し、見通しをもつことで学習に対する主体性が生まれる。継続（何年も）して行っている単元では、1年目は新しい活動で児童も教師もワクワク活動することができるが、何年も続けるとすると、来年度に向けて誰に、どんなことをして、どうなりたかのストーリーの組み立て直しが必要になる。

〈深い学び〉

深い学びを実現するためには、学習のプロセスの充実を図ることが大切である。

- ・子ども達一人一人がどこに向かうのかゴールを明確にすること。
- ・「資質・能力の育成」のためにどのような活動が必要か、通過点の具体化。

など、ゴールイメージ（子ども達の思いや願いの実現）をしっかりとめた後、探究的な活動を組み立てて、体験と表現を繰り返す。また、整理・分析をさせることで、情報が足りないことにも気付かせ再度、情報の収集をさせるとよい。

〈対話的な学び〉

安心して学習できる環境づくりが大切。協働で問題を解決できる学級をめざしたい。

ルールとしては、聞く人は「話し手を支える」という気持ちで、話し手が話しやすいように聞いたり、話の内容を受け止めたりしながら聞く。話す人は「聞き手に話を届ける」という気持ちで、声を届けたり、内容を届けたりするつもりで話す。また、子ども達同士が直接対話できるために「はいどうぞ、ありがとうございます、次に進んでいいですか、もう少し待ってください、待っていてありがとうございます」等、学級の標準語を使い学び合う構えを低学年のうちから身に付けさせておくとよい。

